

1、背景とねらい

秋冬期温暖な気象条件を活用し、女峰を利用した促成栽培が県南部、沿岸部を中心に導入されてきている。

この作型は、需要の多い12月収穫開始をねらっているが、現状では1月上、中旬からの収穫開始となる例が多い。

また、冬期間の栽培も寒さの厳しい年には品質、収量とも変動が大きく、収益性が不安定となっている。

そこで、冬春どり促成作型の安定化技術について検討してきたところ、成果が得られたので参考に供する。

2、技術の内容

(1) 品種は女峰とする。

(2) 12月収穫のための花芽分化処理法としては、夜冷短日処理が最適である。

夜冷短日施設がない場合は、山上げ遮光（標高670～900m）または短日処理（アルミ蒸着フィルム利用）とする。

処理開始時期は8月上旬とする。

(3) 上記の花芽分化処理には、ランナーを早期に発生させ、早期仮植による大苗使用が前提である。

ランナーの早期発生、増殖のためには、3月上旬から5月下旬までハウスまたは有効ポリトンネルによる保温を行う。

仮植時期は6月下旬から7月上旬とする。

(4) 適応地域 県南部、県中南部沿岸

3、指導上の留意事項

(1)定植は頂花房分化後の9月上旬に行う。

(2)保温開始はえき花房の分化後とする。

(3)12月収穫開始のためには、生育促進期の温度管理が重要であり、保温により日中30℃、夜12℃を保つ。

(4)ポット育苗を基本とする。

仮植するポットの大きさは10.5～12cm程度とする。

また、施肥量はポット当り基肥+追肥を成分で0.1～0.2gとする。

4、当該事項にかかる研究課題名
促成いちごの年内収穫開始作型

5、参考文献、資料 省略

6、試験成績の概要

1)花芽分化促進処理法

表1 収量調査 (20株)

(63年度)

処 理	収穫始 (月・日)	良 果								a 当り収量(kg)		
		A		B		くず果		12月	12~5月	比(%)		
		(個)	(g)	(個)	(g)	(個)	(g)	(個)	(g)			
夜冷短日 20日	12.15	590	5,399	61	1,160	344	2,803	1,190	8,823	5.3	348.7	138
山上げ遮光 30日	12.15	640	5,544	48	820	370	2,944	938	3,224	3.3	344.7	137
短日(ビニール フィルム)	12.15	676	5,708	44	898	348	2,888	1,118	2,702	2.1	351.8	140
無処理 (ポット)	1. 5	414	3,548	50	980	276	2,262	1,034	3,080	0	251.5	100

2)ランナーの増殖法

表2 葉数別子株数量 (元年7月20日)

区 別	ランナ ー数 (本)	葉 数 別 子 株 数 (個)								2~5葉 合計 (個)	比 (%)
		1	2	3	4	5	6	7	8		
①ハウス	25.8	11.8	15.8	14.6	9.2	4.8	1.0	0.4	0.2	44.2	375
②トンネル (エーラカガキ 5号)	20.8	8.0	12.6	8.4	9.8	3.4	1.4	0	0	34.2	290
③トンネル (ハルカ N2050)	21.0	6.4	12.8	10.8	6.8	3.6	0.8	0.2	0	34.0	288
④ジベレリン 50ppm	14.8	5.2	5.8	2.2	0.4	0.2	0	0	0	8.4	71
⑤無処理	16.8	4.8	6.8	3.8	0.8	0.4	0	0	0	11.8	100

3)仮植時期

表3 収量調査 (20株)

(63年度)

仮植 時期 (月・日)	収穫始 (月・日)	良 果								a 当り収量 (kg)		
		A		B		くず果		12月	12~5月	比(%)		
		(個)	(g)	(個)	(g)	(個)	(g)	(個)	(g)			
6.25	12.15	585	5,345	53	998	310	2,567	1,160	3,655	21.9	330.0	100
7. 5	12. 6	585	5,170	47	843	310	2,595	1,368	4,293	13.0	318.8	97
7.15	12.15	517	4,522	55	1,080	322	2,690	1,158	3,430	9.5	307.2	93
7.25	12.26	522	4,682	33	628	375	3,183	1,205	3,747	7.4	314.8	95